

RSA® ARCHER® AUDIT MANAGEMENT

ソリューション概要

はじめに

内部監査部門は、ステークホルダーが必要とする戦略的リーダーシップや組織的な保証などのサービスを提供するのに苦心しています。しかし、こうした作業は簡単ではありません。2014年にPwCが実施した調査によると、経営幹部の半分以上は、内部監査が組織に大きな価値をもたらしていないと考えています。組織を取り巻く規制やビジネス リスクの状況は急速に変化していますが、内部監査戦略はこうした変化に対応できるように位置づけられていない場合があります。また、内部監査のこれまでの一般的な役割は法令遵守に関するものでしたが、現在では、動的なリスク計画を監査のアプローチと成果に盛り込むことが期待されています。

既存のアプローチ、ツール、専門技術はこれまで、「ある時点での状態」に基づいた静的な監査計画を中心として位置づけられていました。複数のツールとシステムで作成されたドキュメントは一元化されていないため、統合が難しくなっています。ほとんどの場合、レポートは静的であり、リスク、コンプライアンス、監査の各グループ間での目標の調整には限界があります。他のビジネス機能によって生成された発見事項には可視性が不足しているため、すべての発見事項および改善活動のステータスを追跡することは、内部監査にとって困難で時間のかかる課題になっています。さらに、監査委員会や経営幹部が必要とするレポートの作成には、多くのリソースと時間が必要になります。しかも残念なことに、これらのレポートは完成したとたん古いものになってしまうことも少なくありません。

内部監査チームでは、リソースは少なくなっていますが、責任は大きくなっています。そのため、現在の監査アプローチの変更が必要になっています。チームが内部監査の価値に対する組織内の認識を変えようとしている中で、この変革を実現するためには、リスク ベースの組織的な監査アプローチを採用する必要があります。

リスク ベースのアプローチによる監査の変革

現在の監査アプローチはコンプライアンスを非常に重視しており、プロアクティブというよりもリアクティブなアプローチになっています。これは残念ながら、企業が新しいリスクやオポチュニティを評価するのをチームが集中的にサポートすることができないことを意味します。なぜなら、過去の統制のパフォーマンスの評価に多くの時間を費やすことになるからです。リスク ベースのアプローチを採用し、リスクおよびコンプライアンス担当部門と協力することで、企業および組織の統制に関する最も重要な部分の評価に適切なリスクの観点を加えることができます。これにより、戦略的なビジネス イニシアティブに焦点を合わせ、監査チームが組織にもたらす価値を強調することも可能になります。

RSA Archer Audit Managementのメリット

RSA® Archer® Audit Managementは、リスク/統制機能を統合しながら、監査に関連するアクティビティのガバナンスを向上させ、監査ライフサイクルを完全に制御できるようにします。RSA Archerを使用すると、監査部門の効率性を大幅に向上させることができます。また、リスクに的を絞った監査をより迅速に完了させることができ、ビジネス部門と連携して組織の目標を達成することも可能です。

監査プロセスの自動化

ビジネス、リスク、コンプライアンスの各チームとのやり取りを行わずに、静的なドキュメントまたはスタンドアロン システムで監査計画および監査調書を管理する場合、コラボレーション機能が確実に制限されます。有意義かつ即時性の高い方法で監査の発見事項と結果をこれらの各グループから収集して調整する方法は、静的で「ある時点の状態」の集合レポートを生み出す、手間のかかる手動のプロセスになります。

RSA Archer Audit Managementを利用すると、監査プロセス全体（監査事業体、監査計画、監査エンゲージメント、監査発見事項）を1つのシステムに統合することができます。また、監査プロセスおよび監査チームを管理したり、監査スタッフ、予算、リソース割り当てをすばやく確認したりすることができます。リアルタイムのダッシュボードは、ギャップを特定したり、監査計画が達成されるようにするのに役立ちます。

RSA Archerでは、発見事項の管理プロセスを効率化し、最も重要な問題に焦点を当て、経営陣および監査委員会に対して最も重要な情報を報告することもできます。他のリスク グループやコンプライアンスグループでもArcherを使用している場合、このテクノロジーはさらに強力なものになり、コラボレーション活動のステータスを伝えたり、そうした活動の成果を活用したりする機能が強化されます。

私たちは、企業における内部監査の役割が、企業に影響を及ぼすイベント、リスク、規制に応じて変化し続けるのを見てきました。内部監査をリアクティブなものから企業の戦略上のニーズに即したものと変えるには、多くの時間を費やす必要があります。

John Tantillo氏、パートナー
PwC、内部監査担当者の状況に関する調査
(2014年)
2014年3月

アンケート回答者の80%以上が、内部監査の役割を、内部報告および内部統制という適正範囲を超えて、ビジネス部門が直面している他の重要なリスクも含めるように拡張すべきだと回答しています。

監査委員会に関するグローバル調査
(2014年)、KPMG
2013年9月

リスクベースの監査計画の動的な調整

反復的でコンプライアンス重視の監査テストに多くの時間を割かれていませんか。その結果、監督機関、運営組織、経営陣からの期待が高まっている、よりリスクを重視した監査アプローチを導入する準備に取り掛かれなくなっていないですか。

RSA Archer Audit Managementは、最新のIIA(Institute of Internal Audit)基準およびCOSO(Committee of Sponsoring Organizations)フレームワークに合わせて調整された、導入後すぐに利用可能なベストプラクティスを提供します。これらのベストプラクティスに従うことで、リスクおよびコンプライアンス担当者と連携して、オペレーショナル リスクおよび統制に関するデータを共有してから、組織のビジネス上の優先事項とオペレーショナル リスクの最新の評価に基づいて、監査計画を調整し、活動の優先順位付けを行うことができます。これらのリスクおよび統制システムを統合することで、監査チームとその他のチーム間におけるリスクおよびコンプライアンス活動の優先順位付けと実行に関する調整が促進されます。さらに、ビジネスの現在の状態をより明確に把握できるようになるため、監査計画の策定と監査対象の範囲指定をより適切に行えるようになります。

差し迫った問題に対処するリスクおよびコンプライアンス チームの招集

監査チームは、他のリスクおよびコンプライアンス チームから入手した情報、リソース、結果を常に入手把握しているわけではありません。そのため、重要なリスクや低パフォーマンスの統制に対する可視性が不足します。

RSA Archer Audit Managementを使用すると、内部監査、他のリスクおよびコンプライアンス チーム、経営陣から挙げてきたすべての問題が一元集約管理され、そのカタログが作成されます。これにより、ビジネスワークフローと、問題の重要度と修正ステータスの包括的なビューをすべてのビジネス チームに提供することができます。内部監査では、他のチームが実施した統制テスト、リスク評価と軽減を利用して、組織のリスクおよび統制の現在のステータス、品質、効果をより適切に評価できるようにすることもできます。さらに、重要な結果をまとめ、優先順位を付け、監査委員会とリスクおよびコンプライアンス担当者に伝えることができます。これにより、組織全体の透明性と信頼性のレベルを高めることができます。

RSA ARCHER AUDIT MANAGEMENT

多くの場合、企業が新しいリスクやオポチュニティを評価するのが監査チームが集中的にサポートすることはできません。なぜなら、監査チームは、過去の統制のパフォーマンスの評価に時間を費やすことになるからです。RSA Archer Audit Managementを使用すると、よりリスクを重視したアプローチを採用できるうえ、リスクおよびコンプライアンス担当のビジネス パートナーと連携することもできます。また、ほとんどの重要な分野および統制の評価に、リスクについての適切な観点を加えることができます。さらに、監査チームが組織にもたらす価値を示す戦略的なビジネス イニシアティブに焦点を合わせることも可能になります。RSA Archer Audit Managementには特定のビジネス ニーズを満たし、監査の成熟度を高めるために下記のユース ケースが用意されています。

問題管理

RSA Archer Issues Managementでは、GRCプログラムの基盤を構築し、監査、リスク、コンプライアンス担当の各チームから挙げられている問題を管理することができます。ユースケースには、企業構造を確立し、リスクおよびコンプライアンスの問題に対し説明責任をより正しく提供するためのビジネス階層が含まれています。また、リスクおよび関連の解決方法に対処するのに必要な発見事項、改善計画、例外を管理するためのワークフローも含まれています。

RSA Archer Issues Managementでは、すべての問題をまとめて表示できる統合ビューを作成できます。問題をエスカレーションするための体系的な管理プロセスにより、リスクと、リスクのクローズ/リスクへの対応のための活動を、詳細かつ包括的に可視化することができます。また、問題、改善計画、例外を適切に承認するためのワークフローにより、特定された問題を管理および軽減することができます。組織は、新たに発生するリスクにすばやく対応し、コストを削減しつつ、よりプロアクティブで復元性の高い環境を構築できるようになります。

監査管理/コンプライアンス管理ソリューションは、過去の評価に関する情報にアクセスし、今後も続けて利用できる情報とその必要のない情報を管理するための自動化/一元化されたプラットフォームを提供することにより、組織の監査活動およびコンプライアンス義務をサポートします。これらの製品は、エンタープライズ規模のコンプライアンスイニシアティブをサポートするだけでなく、個々の管理者およびデリバリーチームに焦点を当てた評価を通じて、個々のビジネスユニットの説明責任を強化し、業務活動を改善します。

HCL Technologies

Audit Engagements & Workpapers

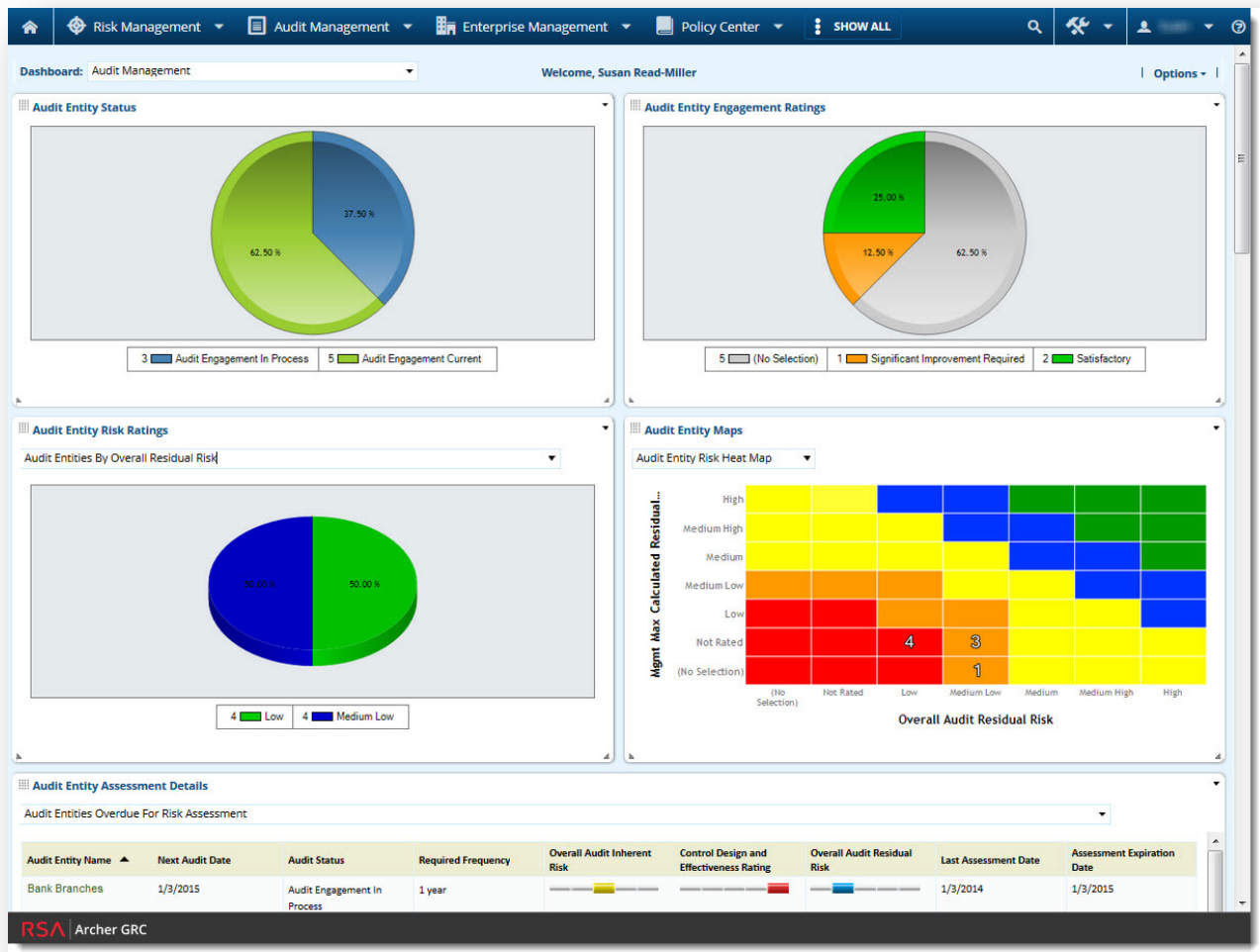
RSA Archer Audit Engagements & Workpapersでは、監査事業体および監査対象の定義、監査エンゲージメントの実行、監査調書の管理、監査結果に関するレポートの作成を、一貫性かつ即時性をもち実行することができます。また、監査部門の効率性を大幅に向上させることができるほか、適切に範囲を絞った監査を迅速に完了でき、外部監査の費用を削減することも可能です。

Audit Planning & Quality

RSA Archer Audit Planning & Qualityを使用することで、内部監査チームは、監査事業体のリスク評価を実施して、次年度のエンゲージメントに対する監査計画を立てることができます。RSA Archer Audit Planning & Qualityによってリスク管理および統制に関する豊富な情報が統合されるため、内部監査では、経営陣、企業のリスク管理グループなどの関連グループとの間で監査目標を同期することができます。また、このユースケースを使用することで、監査マネージャーが適切な担当者と連携して、監査チームおよびスタッフによる監査エンゲージメントを管理することができます。RSA Archer Audit Planning & Qualityでは、監査機能の品質評価を実施して、監査関連のアクティビティのガバナンスを改善することもできます。

まとめ

RSA Archerによって、成長と収益性向上を目指す経営陣の目的をサポートし、リスクの対話をパフォーマンスの対話に昇格させるために、ビジネスに対してリスクを真に整合させることができます。早期の変革からプログラムの成熟に至るまで、監査機能を効果的に活用するツールを提供できるのは、RSA Archerにおいて他にはありません。



EMC, EMC, EMCのロゴ、RSA、RSAのロゴ、Archerは、米国およびその他の国におけるEMC Corporationの登録商標または商標です。VMwareは、米国およびその他の地域におけるVMware, Inc.の登録商標または商標です。Copyright © 2016 EMC Corporation. All rights reserved. Published in the USA. 4/16ソリューション概要H13400-2-J

RSAは、この資料に記載される情報が、発行日時時点で正確であるとみなしています。この情報は予告なく変更されることがあります。